

# 精神看護援助論 I の単元 「レクリエーション療法，クリスマス会の企画・運営」 を通して学生の学び

広島文化学園大学看護学部

林 君 江，加 藤 重 子，佐 藤 敦 子

キーワード：精神看護学，レクリエーション療法，看護学生，企画・運営

## ■ はじめに

精神看護学は，学生が興味・関心を抱く科目でもある。多くの学生は，技術・知識はもちろんのこと，こころのケアのできる看護師になりたいと願っている。一方，病態の理解，治療の理解には，難しいというイメージをいただくものもある。精神看護学領域では，多様な学修方法を取り入れて，学生の理解を深めるよう，授業内容・方法を工夫している。教室での講義に比べ，体験を伴う学修は，理解しやすく記憶に残りやすい。

精神看護方法論 I の学修方法として，園芸療法やレクリエーション療法の実際を取り入れている。精神科社会療法の一つであるレクリエーション療法とは，「スポーツ，ゲーム，芸術活動，野外活動，運動会，文化祭など数多くプログラムがあり，参加を通じて，精神的緊張や葛藤を開放し病状の回復や健康維持を図る治療である。」<sup>1)</sup>とされている。また，レクリエーション療法の目的は，精神科における作業療法と同様に，患者の中に残っている健康な心身の能力に働きかけて，障害された病的な部分を排除していこうとするものである。方法は一般に行われている遊び，ゲーム，スポーツなどを単独ないしは集団的に行い，これらに含まれている治療上効果のあるものを活用するといったものである。

授業を通して，治療上の意義，方法は教授することができるが，参加を通じて，精神的緊張や葛藤を開放し病状の回復や健康維持を図るといった実感を伝えることは難しい。

## ■ 研究目的

本研究の目的は，精神看護援助論 I の単元「クリスマス会の企画・運営」に対して，学生は自身の授業への参加度をどう評価しているのか，体験をどのように振り返り，そこから何を学びとっているのか明らかにすることである。

## ■ 方法

1. 研究対象：A大学看護学部の精神看護援助論 I を履修し，研究に同意の得られた学生107名
2. 研究期間：平成26年4月～平成27年3月
3. 研究方法
  - 1) 学生参画によるクリスマス会の企画・運営と参加度の自己評価（最少1～最大10）

はやし きみえ

〒737-0004 広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学看護学部

2) 授業終了後学びをラベルに記述

#### 4. 分析方法

1) 参加度の自己評価は単純集計した。

2) 学びラベルの記述内容分析：学びラベルは、一文一意味で重要文脈をコード化し、意味内容の同じものをカテゴリー化した。カテゴリー化にあたって精神看護学領域教員3名で行い信頼性・妥当性を確保した。

3) 1) 2) から、精神看護援助論 I の単元“クリスマス会の企画・運営”に対して、学生は自身の授業への参加度をどう評価しているのか、体験をどのように振り返り、そこから何を学びとっているのか検討した。

#### 5. 倫理的配慮

学生に研究目的・主旨、研究への参加は自由意思によるものであること、研究参加の有無が成績には無関係であること、本調査は、無記名とし、個人が特定されないこと、目的以外で収集したデータを使用しないこと、授業の改善に活用し、研究結果を学会等で公表することを文書と口頭にて説明し同意を得た。

#### 6. 授業の位置づけおよび当該授業の展開

##### 1) 授業の位置づけ

精神看護学は、講義4単位と実習から構成される。講義は、精神看護学概論2単位、精神看護援助論 I・II である。本授業は、精神看護援助論 I 講義1単位30時間のうち3回、精神科治療と看護2の実際に位置づけている（表1参照）。

表1 授業目的・授業計画

精神看護援助論 I シラバスより抜粋			
1. 授業目的 (ねらい)			
精神看護学に用いられる中心的な理論を基盤に、看護・医療・福祉の連携のもと行われる精神科疾患の治療と精神障がいのある対象の看護を理解する。			
2. 授業計画			
授業回	授業テーマ	内 容	授 業 目 標
9回目	精神科治療と看護2： 精神療法と精神科リハビリテーション (講義)	精神療法、非薬物療法 精神科リハビリテーション ① 作業療法、レクリエーション療法、芸術療法、 ② 認知行動療法	・精神療法・精神科リハビリテーション看護が理解できる。 ・各治療法について事後学習し、 次回の企画立案に活用できる。
13回目 14回目	レクリエーション療法 “クリスマス会の企画・ 運営” レクリエーションの実際	① クリスマス会の企画 ② 非薬物療法の一つアロマセラピーのプレゼンテーション ③ レクリエーション クリスマス会として(3時間)	・目的を理解しグループで協働してクリスマス会が企画・運営できる。 ・非薬物療法・レクリエーションを楽しむ、目的・意義を理解できる。

##### 2) 授業の展開

クリスマス会の企画作成時間は1時間とし、準備・実施・片付けを3時間とした。授業9回目に授業計画を説明し、クリスマス会の運営にあっては、1グループ6名程度の25グループを自由に作り、企画・運営、出し物、おもてなし、コラージュを行うことを提示し、学生がクリスマス会の企画から、実施・評価まで行ない、次のような役割を担った。

- (1) 企画・運営：10のグループが担当、クリスマス会の準備・会場設営、選曲、プログラム作成と掲示、プログラムの司会・進行。
- (2) 演者：5つのグループが担当し役割は、15分以内で一緒に楽しむ出し物の準備と実践。
- (3) おもてなし：5つのグループが担当し役割は、アロマセラピーのプレゼンテーションとハーブティによるおもてなし。

- (4) コラージュ：5つのグループが担当し役割は、コラージュのプレゼンテーションと準備、クリスマスカード作成。

コラージュは、フランス語で「貼り付ける」という意味で、20世紀初頭にピカソやブラックにより、芸術技法のひとつとして登場した。心理療法におけるコラージュは、芸術療法の一つで作品の美的価値は問わない。コラージュ技法には、コラージュ・ボックス法とマガジン・ピクチャー・コラージュ法などがある。

## ■ 結果

### 1. 各グループによる準備とクリスマス会の様子

各グループによる準備とクリスマス会の様子を以下に示した。

#### 1) 企画・運営グループによる準備の様子 (図1から図4)。

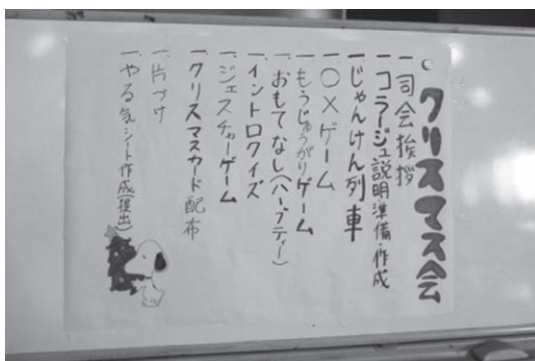


図1 プログラム



図2 飾り付け作成



図3 テーブル用カード



図4 デコレーション

#### 2) 演者グループ：各グループがレクリエーションゲームを考え、音楽当てクイズ，対人関係構築を図る集団で楽しめるもの，ジェスチャーゲーム，競争させるものなどを実施した (図5から図8)。



図5 じゃんけん列車ゲーム



図6 〇×ゲーム





図7 ジェスチャーゲーム



図8 イントロクイズ

3) おもてなしグループ：アロマセラピーをプレゼンテーションし、ハーブティを楽しんでもらえるように準備していた（図9から図11）。



図9 プレゼンテーション



図10 ハーブティスタンバイ



図11 癒しの時間

4) コラージュグループ：プレゼンテーション後、各テーブルに事前に準備したボックスコラージュの物品を配布し、全員にコラージュによるクラスメートへのクリスマスカードの作成を依頼した。作成したカードを回収し、終了時、全員にプレゼントした（図12, 図13）。



図12 コラージュ作成中



図13 配布準備

## 2. 参加度の自己評価結果

参加度の自己評価の107枚のうち、104枚が有効であった。問い“あなたの参画度はどれですかあてはまる数値に○を付けてください”の単純集計結果を表2に示した。参加度の自己評価1～10のうち、8と評価した学生が最も多く30名（29%）、次に10が20名（19%）、9が17名（16%）であった。8・9・10の合計は、67名（64%）であった。3以下が3名であった。

表2 参加度の自己評価（最少1～最大10）

自己評価の値	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数	1	1	1	2	13	8	11	30	17	20	104
パーセンテージ	1%	1%	1%	2%	13%	8%	11%	29%	16%	19%	

### 3. 学びのラベル内容

学生の記述した104枚の学びラベルから191個の重要文脈が抽出された。191個の重要文脈から24個のサブカテゴリーが抽出され、サブカテゴリーから7個のカテゴリーが抽出された。

カテゴリー名は、【非薬物療法の種類・方法・治療効果】【人のためにする事, 人からもらうことで嬉しい気分】【企画・運営・実施がしっかりとできたという達成感】【チームワークやリーダーの役割】【たくさんの人と出会い, 関係の深まりによる一体感】【予想以上に楽しむことができたクリスマスパーティ】【今後への活用】であった(表3)。本文中の表現では、サブカテゴリーに [ ], カテゴリーに【 】を付した。

表3 学びのカテゴリー化

カテゴリー	サブカテゴリー
非薬物療法の種類・方法・治療効果	非薬物療法の種類・方法の理解を深めることができた
	わくわく感やドキドキ感, 楽しい気分, 温かい気持ち, 前向きになれる体験から治療効果が分かった
	日常生活から少し離れる機会をつくる
	看護者側の気持ちを知り, 患者側の心の動きを体験することができた
	自己表現や気分転換・ストレス発散ができた
チームワークやリーダーの役割	チームワークやリーダーの役割の難しさが理解できた
	現代のチーム医療と重なる
今後への活用	自分の健康にも役立てたい
	実習や今後に生かす
	時間や内容に対する疑問もあった
予想以上に楽しむことができたクリスマスパーティ	授業でわざわざクリスマスパーティをする意味や授業の主旨を理解することができた
	自分自身もみんなも楽しむことができてとてもよいクリスマスパーティになりよかった
	予想以上に楽しむことができた
企画・運営・実施がしっかりとできたという達成感	自分たちで協力して企画・運営・実施がしっかりとできた
	自分の担当が役立った
	どの程度にしたらよいか内容を考えながら参加した
	主催者が楽しむ事で参加者が楽しんでくれる事も理解
	達成感や喜びを感じる事ができた
人のためにする事, 人からもらうことで嬉しい気分	カードから人の温かさを感じ, 心を温めることが出来る
	人のためにする事, 人からもらうことで嬉しい気分・気持ちが理解できた
たくさんの人と出会い関係の深まりによる一体感	グループの個性と自分らしさがでていた
	コミュニケーションを通じてたくさんの人と出会うことができる
	学年間が仲良くなり友人関係も深まった
	誰かと何かを一緒にすることで, 一体感が生まれ, 喜びや楽しさが増す

### ■ 考察

本研究の目的は、精神看護援助論 I の単元“クリスマス会の企画・運営”に対して、学生は自身の授業への参加度をどう評価しているのか、体験をどのように振り返り、そこから何を学びとっているのか明らかにすることである。問い“あなたの参画度はどれですかあてはまる数値に○を付けてください。”に対して、最高値の10を付けた学生が約2割、8以上をつけた学生が6割以上と自身の授業への参画の在り方を評価している。学生は、自身の授業への参加度を高く評価しており満足感・達成感が得られたと考える。

また、授業の学びラベルには、自己の振り返りが多く記載されており、体験を通してレクリエーション療法について、クリスマス会の企画・運営について、多くの学びを得ている。クラスが一堂に会し、楽しい時間を創るための役割を各人が担っていたと考える。

学生は、[非薬物療法の種類・方法の理解を深めることができた][わくわく感やドキドキ感, 楽しい気分, 温かい気持ち, 前向きになれる体験から治療効果が分かった][日常生活から少し離れる機会をつ

くる] [看護者側の気持ちを知り, 患者側の心の動きを体験し自己表現や気分転換・ストレス発散ができた] のサブカテゴリーに見られるように, 非薬物療法として用いられるアロマセラピーのプレゼンテーションやハーブティのアロマの効果や, コラージュ・レクリエーションと言った様々な提供から【非薬物療法の種類・方法・治療効果】を学んでいると考える。特に, その課題を担当したグループは, 他者にプレゼンテーションをするということから深く理解していると推察される。

また, [自分たちだけで企画し学生がしっかりとできた] [自分の担当が役立った] [どの程度にしたらよいか内容を考えながら参加した] [主催者が楽しむことで参加者が楽しんでくれるということも理解] し, [達成感や喜びを感じることができた] など, レクリエーションを企画運営する上でプログラム管理や楽しむことの重要性を理解している。そこで, 【企画・運営・実施がしっかりとできたという達成感】があり, 先述した, 授業へ参加度の評価と一致している。

一つの物をクラスで創りあげるためには, 各チームが協力して各自の役割を果たすことが不可欠である。[チームワークやリーダーの役割の難しさが理解できた] [現代のチーム医療と重なる] など, 身を以て大変さや協力する事の大切さが分かり, 【チームワークやリーダーの役割】を理解しているのだと考える。

各グループ色々なプレゼンテーションの仕方があり, コラージュでは, 思い思いのカードを手作りしたり, ゲームでは競争心が見えたり, 協力して勝つことが出来るなど, 今までに, 見たことがない反応や見せたことがない自己表現に対して, [グループの個性と自分らしさがでていた] と感じ, 個人活動, グループ活動, クラスでの活動と [コミュニケーションを通じてたくさんの人とであうことができる] [学年間が仲良くなり友人関係も深まった] [誰かと何かを一緒にすることで, 一体感が生まれ, 喜びや楽しさが増す] ことが理解でき【たくさんの人と出会い, 関係の深まりによる一体感】を感じるものであったと考える。お互い, もてなしたり, もてなされたりすることから, 心を通わせて【人のためにする事, 人からもらうことで嬉しい気分】を実感していると考ええる。

授業に対し, 学生は, [授業でわざわざクリスマスパーティーをする意味や授業の主旨を理解することができた] [自分自身もみんなも楽しむことができて, とてもよいクリスマスパーティーになりよかった] [予想以上に楽しむことができた] のサブカテゴリーに見られるように, クラスで行うクリスマスパーティーには, やってみるまであまり期待していなかったが体験してみると, 【予想以上に楽しむことができたクリスマスパーティー】であったと感じていることがわかる。

さらに, 【今後の活用】として, [自分の健康にも役立てたい] とレクリエーションやハーブティを活用したいと考えていること, [次の実習に活かす] と考えている。一方, [時間や内容に対する疑問もあった] という考えもあった。参加度が4以下は, 5名と少なかったが, 1~3の評価をした学生が3名いることから, この時間や内容に対する疑問を抱いて十分に楽しめなかったり, 企画・運営することができなかった学生がいたと推察される。

学生にとって, 講義中心の授業は, 知識を得るために効率的な方法である。それに比べ, わざわざ時間を割いて人に合わせて企画し, 内容を考え, 相手のことを考え, 準備することは膨大なエネルギーと労力を消費する。そう考える学生もいるであろう。学生には, 授業や演習, 実習と言った様々な学修の中で, 失敗したり, ぶつかったりしながら試行錯誤する体験が重要であると考えている。

このような学生にも配慮しながら, 学生の学びを支援していきたいと考える。

## ■ 結論

精神看護援助論 I の授業単元の一つ“レクリエーション療法, クリスマス会の企画・運営”の実際から, 参加度の自己評価および学びは以下のものであった。

1. 学生は, “レクリエーション療法, クリスマス会の企画・運営”への自身の参画度の自己評価1~10のうち, 10とした学生が全体の約2割, 8以上とした学生が約6割と自身の授業への参画を高く評価していた。
2. 出し物・おもてなし・コラージュの各グループが創意工夫し, クラス全体としてクリスマス会を

企画・運営することにより、体験を通して、【非薬物療法の種類・方法・治療効果】の知識を得ることができた。

3. プログラムを実践しながらもグループ間で協力・調整が必要とされることから、【チームワークやリーダーの役割】を学び、グループでの役割を果たし【企画・運営・実施がしっかりできたという達成感】を味わうことができた。
4. 座学の授業では感じる事が難しい【人のためにする事, 人からもらうことで嬉しい気分】【予想以上に楽しむことができたクリスマスパーティ】【たくさんの人と出会い, 関係の深まりによる一体感】を感じ、さらに自己の健康や患者看護に生かす【今後への活用】へと発展させている。

#### 引用文献

- 1) 野村総一郎他：標準精神医学第5版, 医学書院, p196, 2013.